

平成29年度 体験の風をおこそうフォーラム

実施報告

【日時】平成29年11月28日（火）14:00～16:00

【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟417

【主催】体験の風をおこそう運動推進委員会

【共催】国立青少年教育振興機構

【後援】全国都道府県教育委員会連合会 全国市町村教育委員会連合会

全国連合小学校長会 全日本中学校長会 全国特別支援学校長会

【参加者】152名



主催者挨拶 体験の風をおこそう運動推進委員会委員長 松本 零士



私は、今の若者たちが「あれするな、これするな」といろいろなことを制限されていることが非常に不安です。体験というのは、危険を防止し、命を守るためのものであり、若い日々の体験が精神的にも肉体的にも生涯を支えるわけです。

私が若い頃は、山で遊び、海や川で泳ぎました。小学校2年生の頃、友人と一緒に柿の木に登って柿をかじっていると、ぼきと木が折れて2人で落下しました。しかし、何度も木から落ちた経験があったので、落ち方は覚えていました。それから、関門

海峡で泳ぎ、貨物船の腹くぐりをしていましたが、今は関門海峡を始め、九州の海や川は遊泳禁止になってきていて、山も登らせない。

私は、来年80歳になりますが、若い頃にさんざん暴れまわったおかげで、今のところは何事もなく頑張っています。ですから、いろいろな体験ができる環境を全国的に作って、若者に体験を楽しんでもらいたいと思っています。

この「体験の風をおこそう」運動が元気に力強く子供たちを支援できればと思っておりますので、皆さん一緒に頑張りましょう。

来賓挨拶 文部科学省生涯学習政策局長 常盤 豊 様



今年の6月に、教育再生実行会議があり、その中で第10次の提言がなされています。自己肯定感ということについての提言です。

過去の様々な調査から諸外国との比較をしますと、日本の子供たちの自己肯定感は、諸外国と比べて低いという結果が示されています。もちろん、日本人の調査に対する答えは、割と謙虚に答えるということもあるかと思いますが、一方で、グローバル化が進んでいく中、諸外国の若者たちといい意味で競い合って、これからの時代を生き抜いていくために

は、やはり自己肯定感というものが重要ではないかと思っています。

これまでの調査によると、「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある」といった達成感を味わった人や、「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦をしている」といった挑戦する心を持っている人ほど、自己肯定感が高い傾向にあるということがわかっています。こうした達成感や挑戦する心を育むためには、体験活動を通じて達成感や成功体験を得るとともに、自分を受け入れ、課題に立ち向かう経験を積むことが非常に有効であると考えています。

このあと、パクンマクンによる国際交流をテーマにした講演がありますが、2020年にはオリンピック・パラリンピックが東京で開かれ、世界各国から多くの方々日本にいられると思います。子供たちにとっても、国際的な交流体験をするチャンスがあるかと思いますが、とても参考になるのではないかと思います。このフォーラムが、日ごろから青少年教育に携わっている皆様方の活動の輪を広げ、理解を深める機会になればと願っています。

講演「パッケンマックンの笑撃的国際交流」 パッケンマックン 様



日米お笑いコンビを結成して20周年となりますが、本日は私たちの経験談を交えて国際交流についてお話しします。

まず、国際交流の第一歩は自己紹介です。日本人は自分から声をかける人が少ないですが、国際交流を心掛けたいのであれば、機会を待つのではなく自らつくらなければなりません。しかし、何を話せばいいのかわからない時はとっておきの言葉があります。それは「こんにちは」です。海外から日本に来ている人は日本語を話したい人が多く、日本語で話しかけてあげることが「おもてなし」にもなります。

話しかけた後の会話も難しく考える必要はありません。普段当たり前だと思っていることも、外国人には珍しいことがあります。例えば、折り紙は海外でも有名ですが、実際に折って何かを作る人は少なく、また、じゃんけんの文化はあっても「あっちむいてホイ」まではやらないので、海外の人に教えるとすごく盛り上がります。

更に国際交流を深めるためには、やはり英語を勉強する必要がありますが、英会話はテストではないので、100点満点中50点しか話すことができなくても、相手に通じれば問題ありません。間違いを恥ずかしがらず、自信を持って話すことが重要です。

そして、指導する立場の人は、間違えてもいいということをお子たちに伝えるとともに、そのお手本となっていきたいです。子供の前で外国人と話す機会もあるかと思いますが、自信を持って話しかけ、万が一間違えたら笑いに変えてほしいと思います。間違えた時が一番ものごとを吸収する時で、間違いを楽しむことで勉強も楽しくなります。

これまでお伝えしてきたことを是非、次の世代にも伝えていきたいです。

実践報告「三瓶地域協育ネットワーク」 寺戸 真一 様（国立三瓶青少年交流の家）



豊かな自然に囲まれた三瓶地域で、体験活動を推進する民間団体等が体験活動の普及と啓発を目的に、平成27年度に三瓶地域協育ネットワークを立ち上げました。本日は、地域と連携をして実施しているプログラムをいくつか紹介します。

まず、牧場体験では、牧場の方の指導の下、餌やりや乳しぼりを体験することで、酪農の仕事や命の大切さを学ぶことができます。また、世界遺産である石見銀山を活用したプログラムでは、資料館等と連携して事前学習を行うことで、学校団体が利用しやすいような工夫をしています。

1泊2日の家族向け事業では、複数の地域連携プログラムを行う「さんべまるごとたいけん」や、世

界的半導体メーカーのイワミ村田製作所と連携し、半導体の基本的な知識やものづくりの楽しさをじっくり学ぶ「さんべものづくり教室」を展開しています。

ここからは、イワミノチカラが発行する石見地方の体験プログラムを集めた地域情報誌『いわみん』の活用の可能性を紹介します。1つは、イワミノチカラと三瓶地域協育ネットワークが培ってきたネットワークを駆使することで、新規参加者が増加していくのではないかと考えています。また、『いわみん』の参加者データを比較し、ニーズ等を分析することで、新規プログラムの開発やプログラムの質の向上につなげられると考えています。さらに、学校や公民館で『いわみん』を通じた人材の活用が行われており、様々な形で地域の応援ができるのではないかと考えています。

これらの可能性を実現させ、三瓶地域のみならず、石見地域へのネットワークも広げていきたいと考えています。そして、石見地域により大きな体験の風をおこし、それを地域の活性化、教育力向上につなげていけたらと考えています。

実践報告「体験の風をおこそう北九州実行委員会」 村岡 学 様（北九州市立玄海青年の家）



北九州市では、平成28年度から北九州実行委員会として「体験の風をおこそう」運動に取り組んでいます。市内には、玄海グリーン&アドベンチャー共同企業体が管理運営する青少年施設が3施設あり、北九州市やNPO団体、市民センターの協力を得ながら実行委員会を運営しています。

今年度は、もじ少年自然の家の「もじ祭り」という事業で、竹を使ったペン立てやメダルの作成を行い、1,000人近い来場がありました。また、玄海青年の家では「とんだジャンボリー」という事業の中でのカヌー活動を行いました。

次に、KID's workという団体の3つの活動を紹介します。

まず、「暮らし丸ごと体験塾」では、KID's workが拠点としている「みかんの家」という古民家風の家で、御飯を羽釜で炊き、五右衛門風呂を炊いて入るという生活体験をしながら4泊5日の通学合宿を行います。遠方の児童は、KID's workのスタッフが、車で送り迎えを行っています。

2つ目は「スポーツ鬼ごっこ」です。子供たちの大好きな鬼ごっこをスポーツとして行うことで、年齢性別に関係なく楽しむことができ、基礎体力の向上やコミュニケーション能力を育むことができます。また、あくまでスポーツなので、ライセンスを所有する審判が指導をします。

3つ目は、「馬島きつざわーくキャンプ」です。北九州市の小倉北区に馬島という島があり、夏休みに4泊5日のキャンプを行います。テント泊や野外炊飯、ドラム缶風呂の体験に加え、漁船に乗ってタコ漁も体験します。子供たちが自らの手で生活することで、たくましさを養います。

最後に、本年度のメイン事業である北九州野外教育安全フォーラムでは、オフィステラ代表の町頭隆児氏を始めとした保険の専門家を招いて、保険や野外活動におけるリスクマネジメントについて講演をしていただき、午後からはワークショップを行う予定です。

このフォーラムは年に一度ですが、安全管理について再認識するとともに、ヒヤリハット事例を共有することで、参加者の活動をサポートしていければと思っています。